

行政が核となり幼小連携を推進するための参考資料  
(平成29年3月)

## 平成28年度

# 幼小\*ジョイントプロジェクト

## 足利市の取組

(\*幼小は、幼児教育と小学校教育の意。)



栃木県総合教育センター幼児教育部

栃木県幼児教育センター



## I 幼小ジョイントプロジェクトとは

幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であり、義務教育及びその後の教育の基礎となるものです。「栃木県教育振興基本計画 2020 ―教育ビジョンとちぎ―」においては、「幼児教育の充実」を基本施策の一つとして掲げ、その主な取組として「幼児教育と小学校教育の連携の深化・拡充」が示されています。その中に、「市町の教育委員会や保育主管課等との連携を密にし、市町の現状に即した取組を支援し、その成果を県全体に発信する」とあります。

これを受け、幼小ジョイントプロジェクトでは、県内1市町を指定し、年間5日の計画で市町教育委員会や保育主管課と協力して、大学教授等の助言の下、市町の幼小連携を推進します。幼児期から児童期にわたり子どもの発達や学びの連続性が確保できるよう、幼稚園・保育所・こども園・小学校の教職員が合同で保育・授業を参観し、協議し合うことで、教職員の「子ども観」「教育観」の相互理解を深め、教育・保育の質の向上を図ることを目的としています。

平成28年度は、足利市で実施しました。市内の1保育所、1小学校を指定し、保育・授業や交流活動を公開し、その参観を基に協議を重ねました。全5回の協議の視点を「安心感」という共通のものにし、保育所の持つ「子ども観」と小学校の持つ「子ども観」等を活発に意見交換し、接続期に大切にすべきことを共有化してきました。また、指定した保育所、小学校の教職員だけでなく、足利市内の幼稚園、保育所、認定こども園、小学校にも声をかけ、各回への参加がありました。

本資料では、足利市の本プロジェクトの実践と成果・課題を紹介します。各市町や地域における幼小連携推進の参考にさせていただければと思います。



# 幼小連携のさらなる充実のために



## 子どもの交流活動

先生同士の打合せ



一緒に学校探検



小学校へようこそ



- 幼児・児童の双方のねらいを明確にし、互いに等々の活動を展開しましょう。
- 年間計画に位置付け、幼稚園や保育所、こども園と小学校が一緒に活動の立案・実施・評価を行うことが望まれます。



## 教職員の相互理解

相互の職場体験



保育・授業の相互参観と協議



合同の研修会



- 保育や授業を相互に参観したり体験したりして子どもの発達や学びに視点をお互いで話し合います。
- 幼稚園・保育所、こども園・小学校の教職員と一緒に研修に参加し、互いの教育について積極的に語り合います。

## 連携組織の設置

- 幼小連携協議会
- 幼小連携推進委員会 等



連携の様々な取組が、効果的に  
行われるようコーディネートする  
役割があります。



## 連絡体制の整備

園だより・学校だよりによる  
情報交換



教育委員会内の使送ボックス  
(幼稚園・保育所、こども園内で)



定期的な情報交換会



- 連絡体制の整備は、行政機関が中心となって進めることが大切です。幼稚園、保育所、こども園、小学校が積極的に意見を交換し、地域の特徴を生かした組織をつくりましょう。
- 教職員が互いの顔や名前が分かり、日常的に情報交換をしたり相談したりするなど、定期的・継続的な連携が望まれます。



## 一貫性のある指導計画の作成

伝え合う力を育てるための  
年長から一年生へのカリキュラム



入学当初のスタートカリキュラム



- 子どもの発達を把握し、早通しを持って指導することが必要です。そのためには、育てたい子どもの姿や、能力などを互いに話し合い、どのような指導がどの年齢で必要が明らかになります。
- それらを踏まえ、幼児期の「遊び」を充実させ、児童期の「学習」に生かしていくために適切な手立てをカリキュラムに位置付けましょう。

## 子ども

- ☆ 一人一人の発達や学びの連続性が保障されます。
- ☆ 自分や友達の下さに気付き、遊びや学びが広がります。

## 教職員

- ☆ 子どもの発達段階を知ること、教職員の子ども理解が深まります。
- ☆ 互いの教育を理解することで、自身の教育観が広がります。

## 保育・授業

- ☆ 幼児教育から小学校教育への滑らかなカリキュラムの接続により、改善・充実が図れます。

## 幼小連携を推進することで

栃木県幼児教育センターは、幼小連携  
の取組をサポートします。

連携に関する講話・研修・保育及び授業研究会  
などにアドバイザーを派遣します。お電話ください。

【連絡先】TEL 028-665-7215 FAX 028-665-7216  
E-mail yokyo@ochigi-ed.jp



## Ⅱ 平成28年度 幼小ジョイントプロジェクトの実際

### 1 概要

回	日・会場	内 容
第1回	6/24(金) 筑波公民館	<p>〈 講演会 〉</p> <p>1 挨拶 県総合教育センター幼児教育部長 森田 浩子</p> <p>2 趣旨説明 県総合教育センター幼児教育部指導主事 黒川 貴広</p> <p>3 講話「幼小ジョイントプロジェクトに向けて」 宇都宮大学大学院教育学研究科教授 青柳 宏</p>
第2回	9/28(水) 筑波小学校	<p>〈 授業 〉</p> <p>1 第1学年生活科「みずやつちで あそぼう」</p> <p>2 協議</p> <p>(1) 本日の授業について 足利市立筑波小学校教諭 山崎 友紀子</p> <p>(2) 協議「学び合える活動や体験を通して安心感を育む」</p> <p>(3) 指導助言 安足教育事務所学校支援課指導主事 湯澤 典子</p>
第3回	10/24(月) 羽刈保育所	<p>〈 保育 〉</p> <p>1 年長「なぞの島の冒険part3 “あいつとの決闘”」</p> <p>2 協議</p> <p>(1) 本日の活動内容について 足利市羽刈保育所保育士 田中 しのぶ</p> <p>(2) 協議「活動を通して、安心感を育み、楽しんで活動に参加する」</p> <p>(3) 指導助言 宇都宮大学大学院教育学研究科教授 青柳 宏</p>
第4回	11/21(月) 筑波小学校	<p>〈 交流活動Ⅰ 〉</p> <p>1 年長・第1学年「昔の遊び」</p> <p>2 協議</p> <p>(1) 本日の交流活動について 足利市立筑波小学校教諭 山崎 友紀子 足利市羽刈保育所保育士 田中 しのぶ</p> <p>(2) 協議「学び合える活動や体験を通して安心感を育む」</p> <p>(3) 指導助言 宇都宮大学大学院教育学研究科教授 青柳 宏</p>
第5回	12/14(水) 羽刈保育所 筑波公民館	<p>〈 交流活動Ⅱ 〉</p> <p>1 年長・第1学年「発表交流」</p> <p>2 研究協議</p> <p>(1) 挨拶 県総合教育センター幼児教育部長 森田 浩子 県教育委員会学校教育課副主幹 根岸 美登里</p> <p>(2) 本日の交流活動について 足利市立筑波小学校教諭 山崎 友紀子 足利市羽刈保育所保育士 田中 しのぶ</p> <p>(3) グループ協議</p> <p>①幼小ジョイントプロジェクトを振り返って</p> <p>②幼小連携で大切にしたいこと</p> <p>(4) 指導助言 安足教育事務所学校支援課指導主事 湯澤 典子</p> <p>(5) 今後に向けて 足利市教育委員会学校教育課指導主事 藤生 拓也</p>

\*幼小ジョイントプロジェクトに関連するものとして、上記の他に、次のものも実施しました。

6/1(水) 交流「めいしをわたそう」 6/1(火) 交流「さつまいもの苗を植えよう」

10/24(月) 交流活動検討会(指導助言:青柳教授) 11/10(木) 交流「さつまいもをほろう」

## 2 実際

### 第1回：趣旨説明（平成28年6月24日）

事業の趣旨や連携の意義について、説明や講話を行った。

#### ○趣旨説明

第1回 幼小ジョイントプロジェクト資料（足利市）  
幼小ジョイントプロジェクトについて

この事業の趣旨や目的等を伝えました。

ちよっと待って、その間に・・・  
幼小ジョイントプロジェクトの「幼小」とは？  
→ 幼児教育と小学校教育の意味です。  
ちなみに足利市には、  
・幼稚園 10園  
・幼稚園型認定こども園 1園  
・保育所 23園  
・幼保連携型認定こども園 4園  
・小学校 22校

足利市には、幼稚園・保育所・こども園が38園、小学校が22校あります。

幼小ジョイントプロジェクトは、**幼児期の教育から小学校の教育への円滑な接続が図れるよう**、**足利市をバックアップ**する事業です。

幼児期の教育から小学校の教育へ、円滑な接続が図れるよう足利市をバックアップします。

就学を境にした子どもの状況  
幼稚園 遊びや生活の中での学び、時間的余裕が確保された生活  
小学校 国語や算数などの教科学習、時間厳守された生活  
「わからない」が「つまづく」になる  
「上れない段差」

入学すると生活環境が変わり、1年生は、戸惑いを感じる場合があります。

就学を境にした子どもの状況  
幼稚園 自分でやろうとする意欲  
小学校 最年少の1年生、できないことが増える  
「下りたくない段差」

本当はできるのに、自分の力を発揮できないこともあります。

幼小ジョイントプロジェクトの目的  
○幼・保・こ・小の教職員の「子ども観」「教育観」の相互理解を深め、教育・保育の質の向上を図る。  
○幼児期から児童期にわたり、子どもの発達や学びの連続性を相互理解する。

この事業の目的はズバリこれです！

今後の流れ  
○第1回 講演会  
○第2回 例えば・・・  
○第3回 保育所公開保育・研究協議  
○第4回 小学校公開授業・研究協議  
○第5回 交流活動公開・研究協議  
今まで蓄えてきた連携をさらに一歩進めよう。

公開保育・授業、交流活動を基に協議を重ね、今までの連携をさらに一歩進めましょう。

足利市の子どもたちのために一年間、よろしくお願ひいたします。

幼・保・こ・小が一緒になって、足利市に大きな火花を打ち上げましょう。

#### ○講話「幼小ジョイントプロジェクトに向けて」

宇都宮大学大学院教育学研究科教授 青柳 宏

- ・「自発性」を育むということ

エリクソンの発達の理論に従えば、子どもは就学前後頃までに「自発性」を育む。中学校でスクールカウンセラーもしている私から見ると、この幼児期の自発性の育みがとても大切に思える。思春期の心の荒れの問題も、多くが自発性の未発達に関わっている。

- ・「協同性」が芽生えるとは

協同的なテーマを保育者や教師が一方的に子どもに与えただけでは、協同性は芽生えない。時折スタートカリキュラムの形骸化が見られるが、子どもの必然性から授業を作っていくという視点に今一度立ち戻ってほしい。そうしないと、本当の意味での協同性は育まれない。

- ・求められる資質・能力と幼小連携

産業構造の変化に伴い、1990年代の後半から教育分野でも変革が進んでいる。今回の学習指導要領等の改訂のキーワードでもある「資質・能力」だが、情意的な部分にも重点を置いている。それは、自発性や協同性と強い関係があり、それを育む根っこが幼小連携にあると思う。一人一人の子どもが生きがいを見つけ、格差や平和について考える力の基盤をこの幼小連携で見つけてほしい。



## 第2回

### 第2回：授業1（平成28年9月28日）

足利市立筑波小学校で、授業公開を行った。保育所、小学校の教職員等が参観し、授業の中で児童が安心感を育んだ場面を記録し、その要因について協議した。その中から「学び合える活動や体験を通して安心感を育むために、この時期に大切にしたいこと」を導き出した。

#### ○第1学年生活科指導案

1 題材名 みずやつちで あそぼう

2 本時の目標

みずやつちを使った遊びについて、伝え合うことができる。

3 本時の展開

◎人権教育上のチェックポイント

学 習 活 動	時間 形態	教 師 の 支 援	評価・方法
1 本時の活動内容を確認する。 「あそびめいじん」 発表会をしよう。	3 一斉		
2 グループごとに、どんな遊び方の名人発表をするか紹介する。	5 一斉	・グループごとに発表させ、「みんなに教えたい」という願いを持ち、見通しを持って活動に取り組めるようにする。 ※具体的にどんな「遊び名人」かを発表させることでグループの活動のめあてを確認させる。	
3 発表会をする。	25 グループ 一斉	◎本時における発表のルールを確認し、児童の発表の様子を把握する。 ※活動時に撮った写真を使うなどして、発表の仕方を工夫させる。 ※3・4人のグループで活動させることで、協力して発表できるようにしたい。  ☆戸惑っている児童には、どんな発表をするか確認をしたり、グループの友達と協力できるように言葉がけをしたりする。	【関】自分で見つけたことをすすんで発表している。 (行動観察・発言) 【思】やったことや見つけたことについて、絵や文、言葉で表している。 (行動観察・発言・記録カード)
4 発表を聞いた感想を話し合う。	10 一斉	◎児童の発表に対して、共感的な言葉をかけながら、児童の思いや考えを把握する。	【気】水や土での遊びを通して、それらの特徴に気付いている。 (発言)
5 本時を振り返り、学習のまとめをする。	2 一斉		

○授業の様子～参会者の記録から～

保育所の“遊び”が学びに生きていることがわかった。  
(保育所保育士)

グループでの発表は、“助けてくれる仲間がいる”という安心感を生んでいた。  
(保育所保育士)

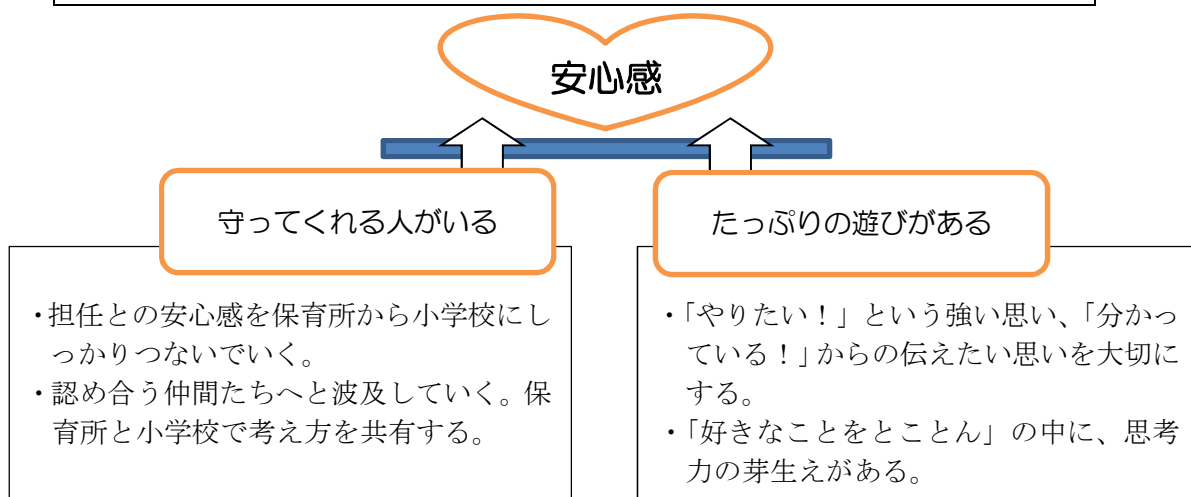
「〇〇名人」と呼ばれることで、“自分ができる”という安心感が持てたのではないか。  
(小学校教諭)

普段からの担任との信頼関係が、発表時の安心感につながっていた。  
(小学校教諭)

○協議

「学び合える活動や体験を通して安心感を育む」をテーマに協議した。

**学び合える活動や体験を通して安心感を育むために、この時期に大切にしたいこと**



○指導助言（安足教育事務所学校支援課指導主事 湯澤 典子）

- ・子どもが安心感を育むためには人間関係と環境が重要である。一人一人が認められ、活躍の場がある学級は居心地のよい学級となる。また、担任はいつでも自分の味方であるという信頼関係があってこそ安心感を育むことができる。
- ・今回、児童はやりたいことを自分で決めて取り組んだことで、夢中になって学んだ。興味・関心はこれまでの経験から生まれるものであるため、保育所では遊ぶ時間を十分に設けることが大切である。



「おおきい“しゃぼんだま”できたよ」



授業参観後の協議の様子

# 第3回

## 第3回：保育Ⅰ（平成28年10月24日）

足利市羽刈保育所で、保育公開を行った。小学校、保育所の教職員等が参観し、保育の中で子どもが安心感を育んだ場面を記録し、その姿について協議した。小学校、保育所、また外部の立場からそれぞれ子どもの姿を語り合うことで、この時期に大切にしたいことを深めることができた。

### ○5歳児保育指導案

1 主活動 なぞの島の冒険 part 3 “あいつとの決闘”

2 ねらい

安心して伝え合おう “共通のイメージの世界の中で友達と力を合わせて楽しむ”

3 展開

時 間	(予想される) 子どもの活動	保育士の関わり	環境構成
10:30 (ぞう組)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの冒険を振り返り思い出して話す。</li> <li>・“あいつ”を倒すための作戦会議</li> <li>☆友だちの考えを聞いたり、自分の考えを伝えよう。</li> <li>・なぞの島での約束を決める。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで力を合わせること。</li> <li>・あいつを倒したら遊ぶ。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの言葉を補いながら、共通のイメージを持てるように働きかけていく。</li> <li>・子どもが話すことには共感し、自分が話したことを認めてもらったという満足感を持たせる。</li> <li>・「先生も一緒に行くよ」と安心感を持たせる。</li> </ul>	
10:45 (遊戯室)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で作った武器を持って遊戯室に移動。</li> <li>・“あいつ”との決闘</li> <li>みんなであいつのいる所へそっと近づき、棺の前に行く。グループごとに順番にあいつの苦手なものを棺に置いていき、倒す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの気付きや思いを感じ取りながら、保育士も一緒に子どもの仲間になって遊ぶ。</li> <li>・“あいつ”を倒し、この場（島）が安全な場所であることを伝え、安心感を持たせる。</li> <li>・子どもが自由に遊べるように見守りながら、声をかけていく。</li> </ul>	
11:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぞの島で遊ぶ。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな場所で友達を誘い合って遊ぶ。</li> <li>・友達や保育士にできたこと、挑戦していることを伝える。</li> <li>・友達の取り組む姿を見たり真似たりする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生見て」の言葉に丁寧に答え、できた喜びに認めや共感の言葉をかける。</li> <li>・友達から刺激を受けられるように友だちの姿を見る機会を設ける。</li> </ul>	
11:20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集まり・片付け</li> <li>今日の冒険はどうだったか話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・またやりたいという期待を持たせた後、続きはどうするか、子どもに投げかける。</li> </ul>	



○保育の様子～参会者の記録から～

子どもの「やりたい」を自然な形で実現させており、自発性がとても大切にされていた。  
(小学校教諭)

自分たちのイメージを広げていく喜びが表情から読み取れ、充実感、さらには安心感につながっていた。(小学校教諭)

十分に自己発揮し、友達との関わりを深めることが、安心して伝え合うことにつながると実感した。(保育所保育士)

一つ一つの活動の中に小さな安心感を見出し、主体的に遊びを展開する子どもの姿があった。(保育所保育士)

○協議

**活動を通して、安心感を育み、楽しんで活動に参加するために大切にしたいこと**

- ・遊びを通して、さらに深まっていく友達同士の関係
- ・それぞれのイメージをさらに広げていく姿
- ・自発的に物事を進めようとし、試行錯誤する様子
- ・「〇〇くんが」と、個がつながり合っていくという連鎖
- ・いつの間にか、生まれたその場のルールやマナー

遊び込む中に、「無自覚な学び」が！

小学校での学習の土台



- ・担任と積み上げてきた信頼関係
- ・個と個の人間関係
- ・イメージの共有化 等

○指導助言 (宇都宮大学大学院教育学研究科教授 青柳 宏)

- ・安心感が随所に見られる保育と保育環境であった。
- ・「協同」の考え方であるが、1つの目的にみんなで行くということだけではない。「遊びが響き合う」ということも大切にするとよい。
- ・「教えること」と「考えさせること」のバランスが大切である。
- ・言葉によって伝える(導く)だけでなく、自発的な体験(体で表現したり、共鳴したり)から生じ、増幅していく安心感があると素晴らしいと思う。



“あいつ”の嫌いな薬の作り方。  
この色を混ぜると・・・



“あいつ”がいなくなった“なその島”  
でバーベキューだ！

## 第4回

### 第4回：交流活動Ⅰ（平成28年11月21日）

足利市立筑波小学校で、交流活動を行った。羽刈保育所、筑波小学校の教職員が参観(市内幼稚園・保育所・小学校等からも8名が授業を参観)し、授業の中で幼児や児童が安心感を育んだ場面を記録し、その要因について協議した。その中から「学び合える活動や体験を通して安心感を育むために、この時期に大切にしたいこと」がどのようなことなのかを明らかにした。

#### ○第1学年生活科指導案

1 題材名 昔の遊び

2 本時の目標

【保育所5歳児】 1年生のお兄さんお姉さんと一緒に活動することができる。

【小学校第1学年】 昔の遊びの遊び方を幼児に教えてあげたり、一緒に遊んだりすることができる。

3 交流活動の視点

幼児と児童がペアやグループで活動することによって、互いに安心して活動することができるようにする。幼児は、1年生のお兄さんやお姉さんとともに小学校での活動を体験することで、小学校生活への不安を取り除き、憧れや安心感を持てるようにする。小学生は、幼児と交流することで、上級生としての自覚と責任感を持てるようになる。

4 本時の展開

◎人権教育上のチェックポイント

学 習 活 動	時間 形態	教 師 の 支 援	準備物
1 本時の活動内容を確認する。 ・1年生が、始めの挨拶や活動紹介をする。	一斉 5分	・羽刈保育所の幼児と1年生を向かい合わせで並ばせる。	・CD ・ラジカセ
2 5つのグループに分かれて、一緒に遊ぶ。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おはじき</li> <li>・けんだま</li> <li>・だるま落とし</li> <li>・かるた</li> <li>・めんこ</li> </ul> </div> ・1年生が用具の準備をし、幼児に遊び方を教えてあげたり、一緒に遊んだりする。	グループ 35分	・どのグループになるかすぐに分かるように、名前の書かれた紙を持たせる。  ・全員が全ての遊びで遊べるように、時間を決めて、班で移動できるようにする。  ◎各グループへの指導を通して学習状況を把握する。	・画用紙 ・遊びの用具
3 本時の活動を振り返る。	一斉 5分	・活動を終えての感想を聞く。	・手紙

○交流活動の様子～参会者の記録から～

交流活動の事前（今、どんなことに興味を持っているのか）、事後（どんな学びがあったか）の話合いで互いを理解することが大切。  
（保育所保育士）

同じペアで交流を重ねてきたことで子ども同士の信頼関係が深まっており、自園の地区でもこのような交流活動を行いたいと思った。  
（保育所保育士）

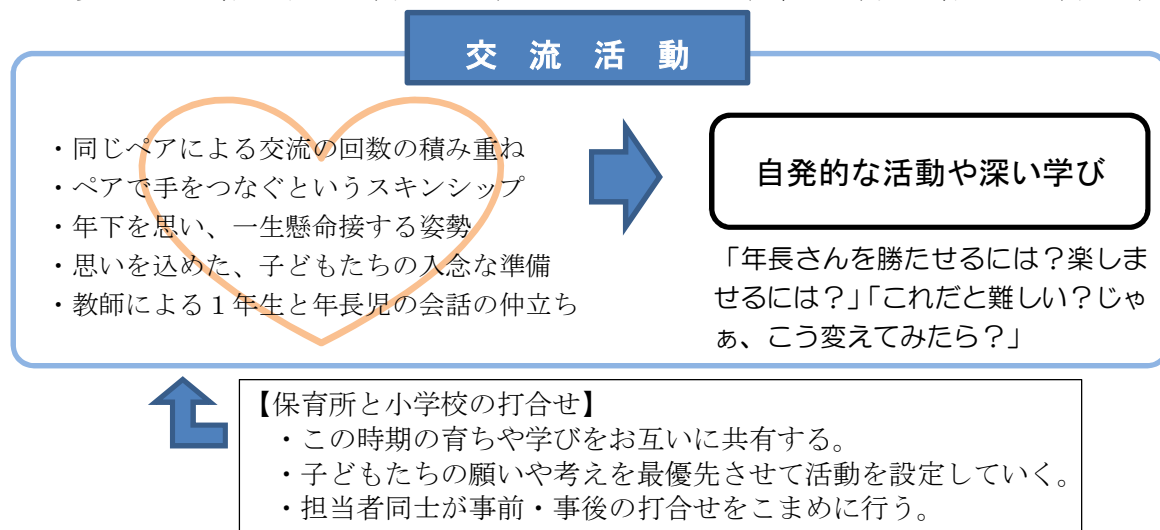
1年生が、ペアの年下の子を思いながら、活動内容を準備してきたことで、柔軟に自発的に活動する姿が見られた。  
（小学校教諭）

綿密な事前の打合せにより、年長と1年生それぞれの時期に適した学びが活動の中で見られた。  
（小学校教諭）

○協議

**学び合える活動や体験を通して安心感を育むために、この時期に大切にしたいこと**

※安心感とは、人と人との関わりの中から生まれるもの（担任との関わり、友達との関わり）



○指導助言（宇都宮大学大学院教育学研究科教授 青柳 宏）

- ・ サポート、被サポートの関係は、自信になり、安心感を生むと思う。しかし、それだけの関係で終わらせないことが大切である。
- ・ 人間関係を円滑に再構築できるのは、モノと深く関わりながら関係を育んできた子ども。人間関係にのみ依存してきた子どもは、難しいときもある。仲良くなるだけでなく、同時にモノと関わることを考えていきたい。
- ・ 接続期だけで幼小連携を見るのは惜しいこと。小学校全体で「遊びを通しての学び」という考え方を理解し、その考え方を生かして活動的で深い学びが保証されるとよい。



交流のペアでだるまおとし



1年生がかかるたの読み札を読みます

## 第5回

### 第5回：交流活動Ⅱ（平成28年12月14日）

足利市羽刈保育所で、交流活動を行った。筑波小学校との5回目の交流活動で最終日にあたる。がんばってきたもの、見せたいものをお互いに発表しあう今回の発表交流を通して、これまでの交流活動で年長児、1年生がそれぞれに育ててきたものを足利市内の小学校、保育所、幼稚園等の教職員が参観した。その後、本日の交流活動を中心にしながら、これまでの授業・保育公開、協議も踏まえ、「学び合える活動や体験を通して安心感を育むために、この時期に大切にしたいこと」についてグループに分かれて協議を行った。

#### ○5歳児保育指導案

##### 1 主活動 発表交流

##### 2 ねらい

友達（クラス・1年生）のいい所を見つけよう。

##### 3 展開

時間	子どもの活動	指導上の留意点	環境構成
10:30	・挨拶（開始）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流会で行なうことを分かりやすく話す。</li> <li>・お互いのいい所・かっこよかった所、頑張っている所を見つけようと話す。</li> </ul>	
10:35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぞの島の劇をする。</li> <li>*自信を持って自分たちの作った劇を演じ、見てもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが普段通り楽しく表現できるよう、舞台上上がる前に言葉をかける。</li> <li>・子どもたちと一緒に一年生の出し物を見ながら具体的に上手な所を話したり子どもの話に共感したりする。</li> </ul>	
10:50	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一年生の歌の発表を聞く</li> <li>*一年生の歌っている姿に、憧れをもちよい所を見つける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの交流が思い出せるよう映像を用意し質問したりしながら、楽しかったことを思い出せるよう、子どもからの言葉を引き出し進めていく。</li> </ul>	プロジェクター・スクリーン準備
11:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの交流を振り返り、自分がうれしかったこと、楽しかったこと、一年生の素敵だった所を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども一人一人の言葉を認めながら、困っているときにはさりげなく、援助していく。</li> </ul>	
11:05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの言葉で思ったことを相手に分かりやすく話す。</li> <li>・友達や一年生の思いを聞く。</li> </ul>		ぞう組・一年生 向かい合って一人ずつ 思いを表現する。
11:20	・挨拶（終了）		

○交流活動の様子～参会者の記録から～

4月から始まった交流の雰囲気づくりが今日のよい結果につながった。小学校への期待感が膨らんだのがよく分かった。  
(保育所保育士)

招待形式ではなく、子どもの姿を小学校と保育所で共有し、共同で活動を組み立てたのが、子どもの安心感につながっていた。  
(保育所保育士)

保育士が小学校の様子を見て、発表する力、人に伝える力を意識した結果が今日の交流につながっていたと思う。  
(小学校教諭)

最後に生き生きと感想を述べ合うことができたのは、今までの交流で安心感をしっかりと作り上げてきたからだと思う。  
(小学校教諭)



5回の交流活動を共にしたペア



贈り物の交換

○各担任から



足利市羽刈保育所  
年長児担任 田中しのぶ

「あこがれの1年生に自分たちの頑張りを見せたい！もしかしたら、すごいって言ってもらえるかも！」という子どもたちの思いから今日の活動をつくっていった。発表会で劇を見せることに決めたが、この劇は、普段の子どもたちの遊びをヒントにしている。子どもたちが遊びの中で発している言葉をメモして劇のせりふにするなど、遊びの世界を無理なく舞台にもっていくようにした。

最後に感想を述べたところは、子どもたちがその場で考えたもの。率直な感想で心温まるものがあつたが、自分の言葉で伝え合うことができたことは、このジョイントプロジェクトの最大の成果だと思う。様々な活動を通して、自分を知ってもらい、相手を受け入れ、心と心がつながる姿に嬉しさを覚えた。

今回のジョイントプロジェクトで、保育所にとって小学校がより近い存在になった。小学校を知ることは、子どもの成長をつなぐ上でとても大切だと思った。



足利市立筑波小学校  
1学年担任 山崎友紀子

1か月前から、「どのようなものを見せようか、渡そうか」と子どもたちが自然に思いを巡らし、最終的に相手の好きなものにまで具体的に考えを至らせていた。今日は、自分たちのかっこよいものを見せられた達成感だけでなく、相手の素晴らしいものを見られた喜びも感じていた。4月からの交流で、子どもたちの間に温かいものが確かに芽生えていた。

このジョイントプロジェクトに関わるまで、保育所の活動や保育士の思いや願い、年長児の発達や学びは不透明だった。それがクリアになり、普段の授業や交流活動をより実りあるものに変えることができた。また、子どもがやりたいこと、やってみたいことを主軸にした主体的な活動の大切さも同時に学んだ。教師のやらせたいことよりも子どもの思いから生まれた課題の方が、達成したときの感じ方の度合いが違うと実感した。

## 第5回

### ○グループ協議

全5回の幼小ジョイントプロジェクトを振り返り、幼小連携で大切にしたいことについて話し合った。



#### 【A グループ】

- ・自分のことを知っている小学校に入る安心感がある。
- ・認めてくれる仲間、それを意識した学級経営を大切にしたい。
- ・子どもの興味に即した保育を小学校でも参考にして教育課程を編成したい。



#### 【B グループ】

- ・交流活動は、小1がお兄さん、お姉さんになれる大切な学習の場である。
- ・保育所と小学校でその時期に何を学んでいるのかを共有化したことで、自信を持って接続期の指導ができる。
- ・小学校のスタートを子どものできるところから始めることができる。



#### 【C グループ】

- ・保育所と小学校がこれまで以上に深くつながることができた。
- ・子どもだけでなく、教職員の交流はとても大切である。
- ・顔が見える関係であることで、要録による引継ぎも重みを増す。



#### 【D グループ】

- ・交流活動の事前打合せを通して、お互いの教育観、子ども観に触れることができ、学ぶことが多かった。
- ・5回の交流活動をペアにしたことで、お互いのことを考えることができ、本来持っている力を存分に引き出すことができた。

### ○指導助言（ 安足教育事務所学校支援課指導主事 湯澤 典子 ）

- ・「自分ができる」「仲間がいる」など、一人一人の子どもが安心して学習や活動できる雰囲気づくりが、筑波小、羽刈保育所ともに丁寧にされていた。
- ・お互いの子どもの実態を把握した上での交流活動の積み重ねは、幼小接続においても重要なポイントになる。
- ・今後も、この連携をより深めて、子どもの姿からカリキュラムを編成し、学びをつなげていってもらいたい。それぞれの学び方の中に、ヒントはたくさん隠れていると思う。

### Ⅲ さらなる幼小連携の充実に向けて

今年度の足利市のジョイントプロジェクトは、回を重ねるごとに協議が活発になり、保育所と小学校の教職員の相互理解が深まってきました。これまで続けてきた交流活動を基盤に、最終的に、お互いの顔がさらに見え、気持ちまで見える関係を築き上げることに成功しました。お互いの思いを汲んだ上での交流活動は、これまでのものより目的が明確となり、子どもの学びも大きいものでした。

また、羽刈保育所、筑波小学校以外の園や学校の教職員の積極的な参加がありました。地区が違うからこそ、見える視点があり、抱える悩みがありました。それが、刺激となり、子どもの理解や指導の手立て、連携の在り方等についてより深みを増した協議ができたと思います。

今回、羽刈保育所と筑波小学校で得た成果は、隣接しているという好条件だけでなし得たものではありません。「近くにあっても、どのような思いで保育・授業をしているのか分からない」「交流活動が形式的なものになり、悪い意味で行事化している」と言った声はよく聞かれます。既存の交流から一歩取組を前進させ、お互いの「教育観」「子ども観」の共有化を図った今回の試みは、立地条件だけに依拠したものではなく、条件の違う他地区でも参考になることが多いと思います。今回のプロジェクトが心の距離を縮める足利市のモデルとして、市全体に広がっていくことを期待します。

#### 足利市教育委員会学校教育課 藤生 拓也 指導主事より

幼小ジョイントプロジェクトを通して、保育所と小学校のそれぞれのよさを生かしながら、子どもの指導を考えることができました。年長担任と1年生担任が中心となって、何度も何度も打合せを重ねるうちに、共有されるものが膨らんでいったように感じます。幼小連携において、まずは相互の理解がスタートだと思います。今後は、小学校入学までに育てたい力、年間指導計画、保護者との連携などについても、さらに相互理解を深められるとよいと思います。

また、足利市の幼稚園、保育所、こども園、小学校の教職員で、小学校に入学してくる年長児の姿を見合い、協議することができました。このことにより、スタートカリキュラムの改善のきっかけを得ました。今回の成果を各地区における接続期の教育の質向上につなげていきたいと思います。



地域で取り組む「幼小連携事業」の参考にして  
ください。

行政と幼・保・こ・小の教職員が一体となって、  
栃木県の幼小連携を推進しましょう！

